

さらなる飛躍を 目指して



(株)北原産業
代表取締役

北原 忠

新年明けましておめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの蔓延と原油化学製品の高騰などの煽りを受けて目まぐるしい変化の一年でした。

2022年も当社にとってまだまだ追い風の年とはいえないかもしれません。

調達、製造の現場から販売・消費まで、サプライチェーンの見直しと生産性アップを目指して製造から販売納品までのすべてのパートの合理化などにも目を向けていかねばならない時がきたのかもしれません。

人材の育成や会議なども今までとは違い生産性を考えた方向に変えられるべきでしょう。

新型コロナウイルスの蔓延により培われたリモート会議。当社でも以前からリモート会議は行ってまいりましたが、他部署や全国の営業社員とリモート会議などは行っていませんでした。この一年でそれもかなり進んで、特に支店などへの集合がなくても会議が普通にできるようになりました。

これは大きな変化です。出張費の削減や移動時間の削減がこれほどできたためしはないでしょう。

さらにはお客様や協力会社様との打ち合わせも大抵のことはリモートでできるようになりました。すごいことです。

これまでに日本のネットワーク網が発達していたおかげですね。

新型コロナウイルスの蔓延は人類にとって大変不幸なことではありますが、考えを変えれば人類にとって大きな転機なのでしょう。

当社もその大きなうねりの中で良い方向へと変化できるように飛躍の年にしたいと考えております。

「企業は人なり」と昔からいわれますが、まさに新型コロナウイルスの脅威は人と向き合うきっかけとなりました。強い人をたくさん抱えている企業ほど、跳ね返していく力もついていると感じました。

新商品も多数発売するきっかけにもなりました。何よりも私自身が勉強になりました。

「コロナ禍」という言葉も今年は徐々に薄れていきこれが普通とを感じるようになってくるでしょう。しかし新型コロナウイルスから学んだことをさらなる躍進へ少しでも役立てて、いきたいと考えています。

わが包装業界は今年も追い風とはいえない状況が続きますが、われわれにしかできない、さらなる包装業界の発展と日本包装技術協会の皆様のご健勝とご多幸をお祈りして新年の挨拶とさせていただきます。